

病例2 甲状腺

症例 2 甲状腺

症例：60歳代、男性。

既往歴：他院にて**喉頭癌**（詳細は不明）。

臨床所見：CTにて甲状腺右葉・狭部の腫大を指摘。

検体：右甲状腺穿刺吸引細胞診。

標本：BDサイトリッチ™法

選択肢（最も考えられるもの）

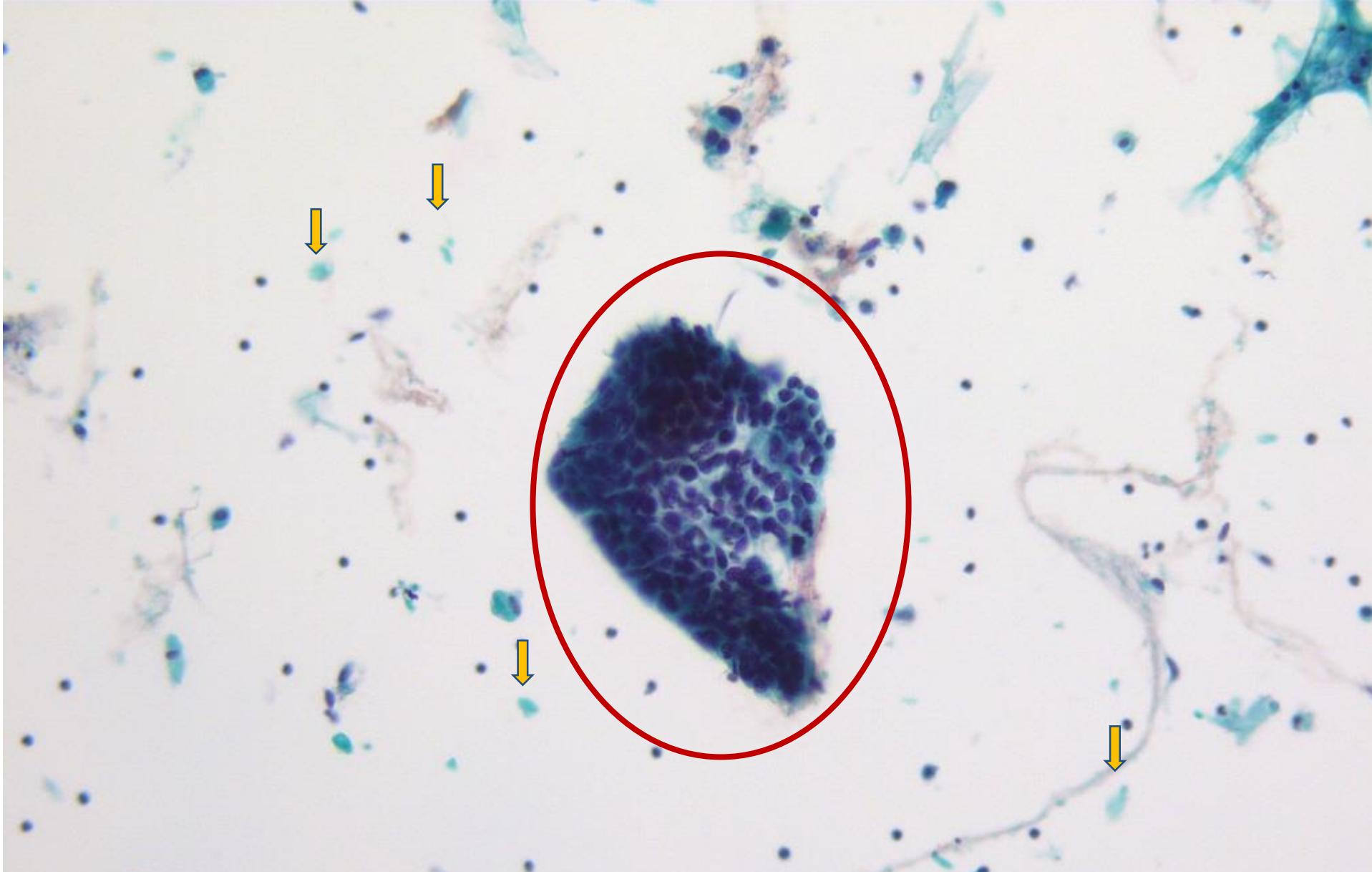
①乳頭癌

②濾胞性腫瘍

③未分化癌

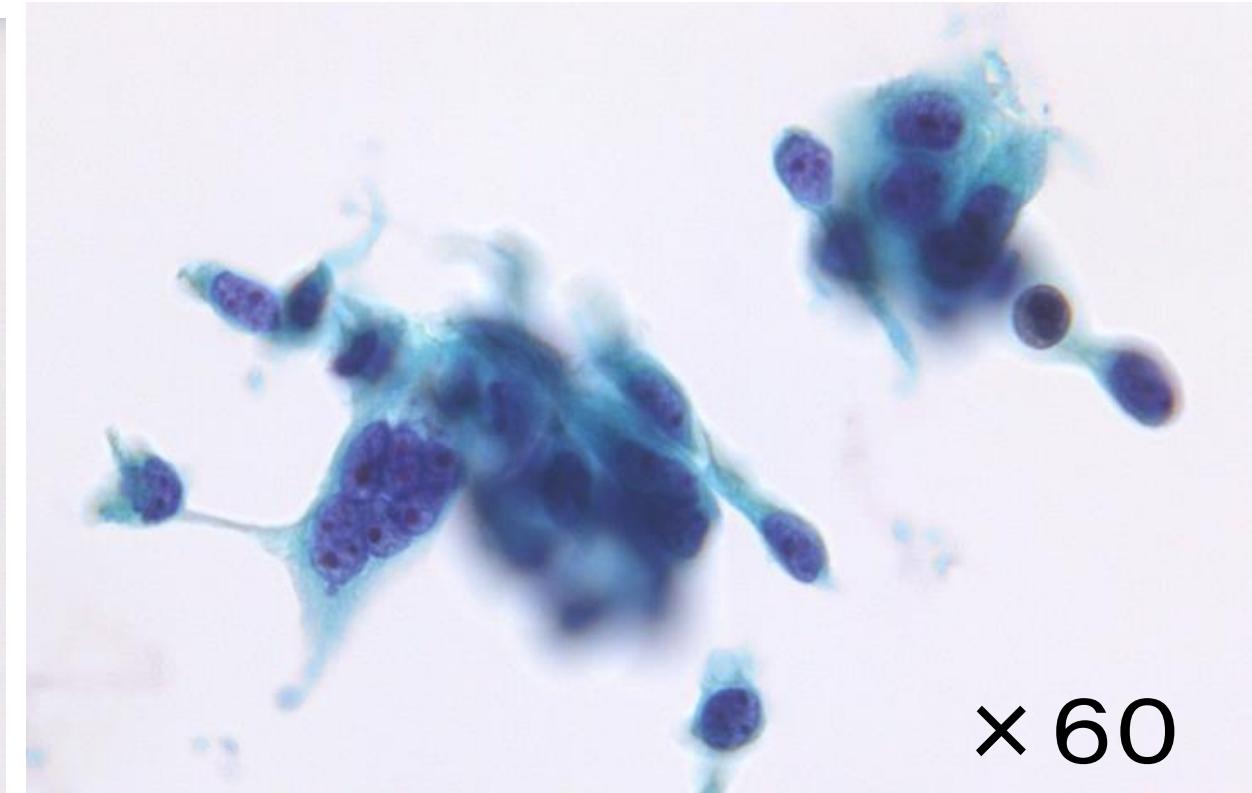
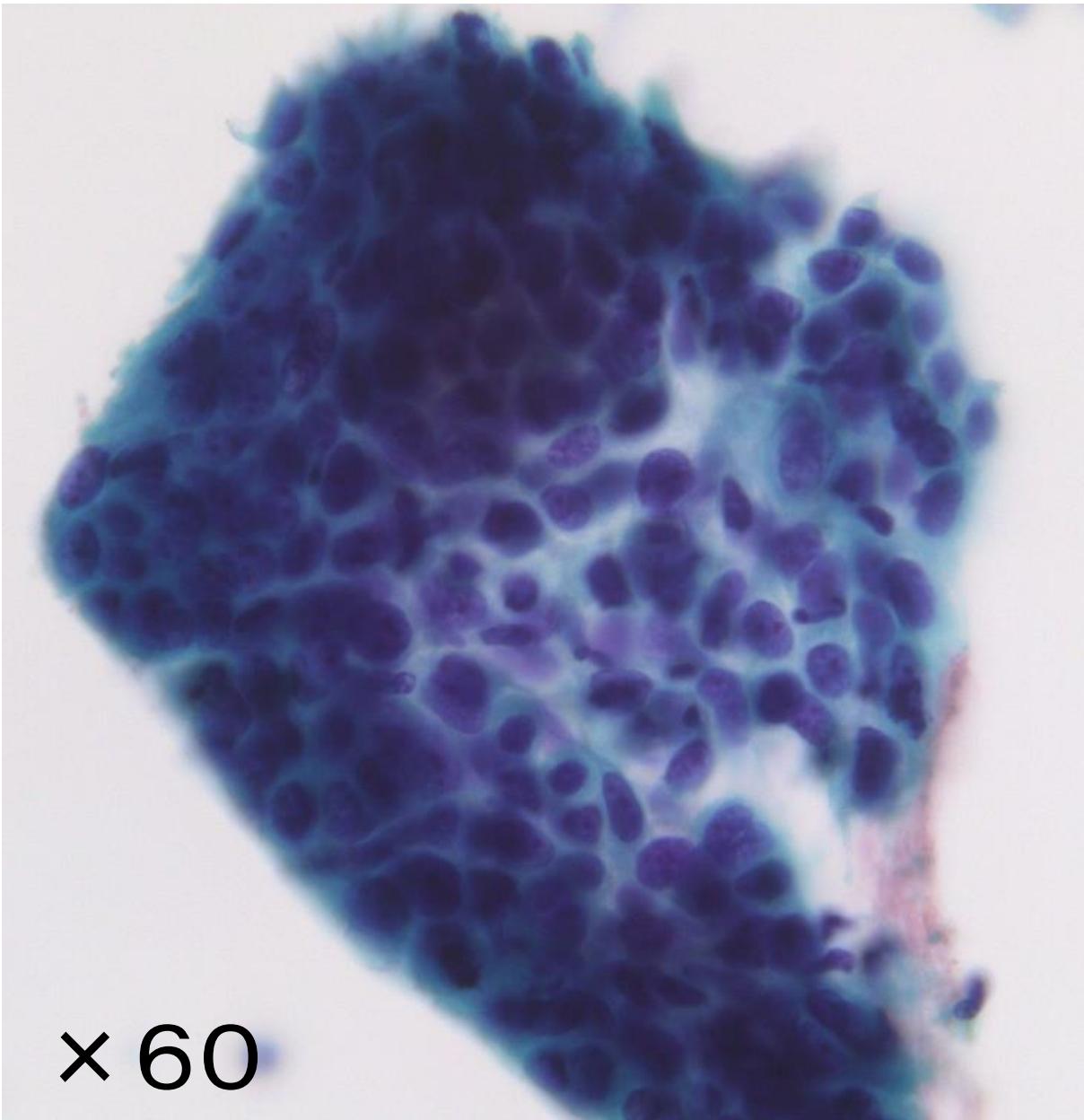
解答) ④扁平上皮癌

⑤腺癌転移



- びまん性に壊死物質を認める (↓)
- 大型細胞集塊を認める

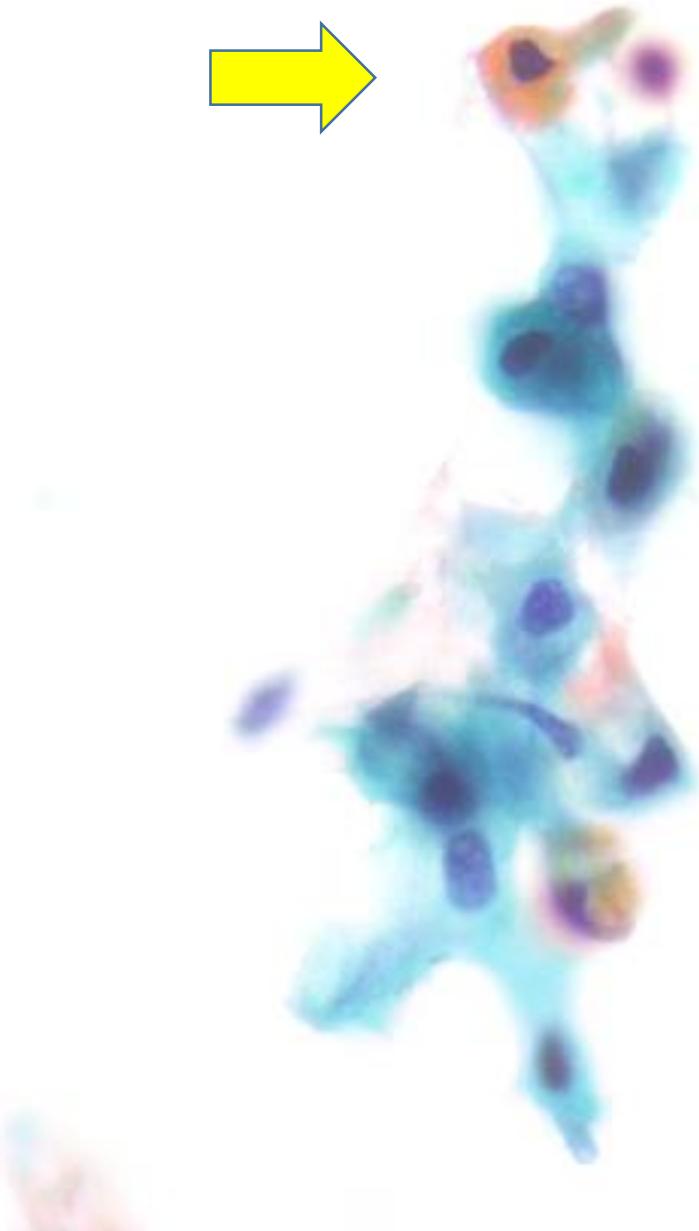
× 20



- 核溝や核内細胞質封入体を認めない.
- 細胞の大小不同や核形不整が目立つ.
- 明らかな腺腔構造や血管結合織を持った乳頭状細胞集塊は認めない.

- ・ シート状細胞集塊
- ・ 細胞質は豊富で厚く多辺形
- ・ 核は中心性
- ・ クロマチンは粗顆粒状や濃染状
- ・ 明瞭な核小体

× 60



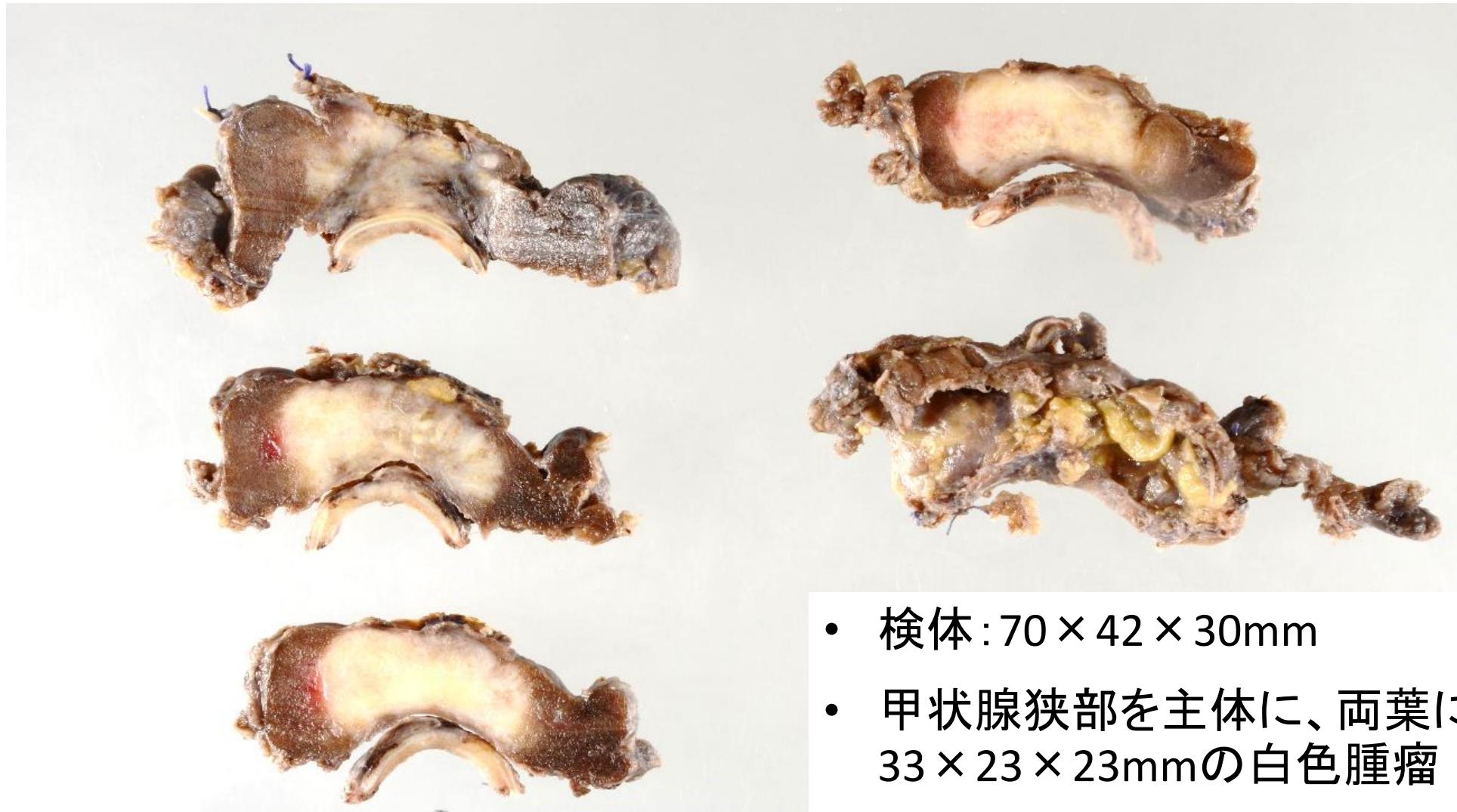
$\times 60$

- 核形不整、クロマチン増加を示す
- 細胞質は好酸性である
→角化異常細胞



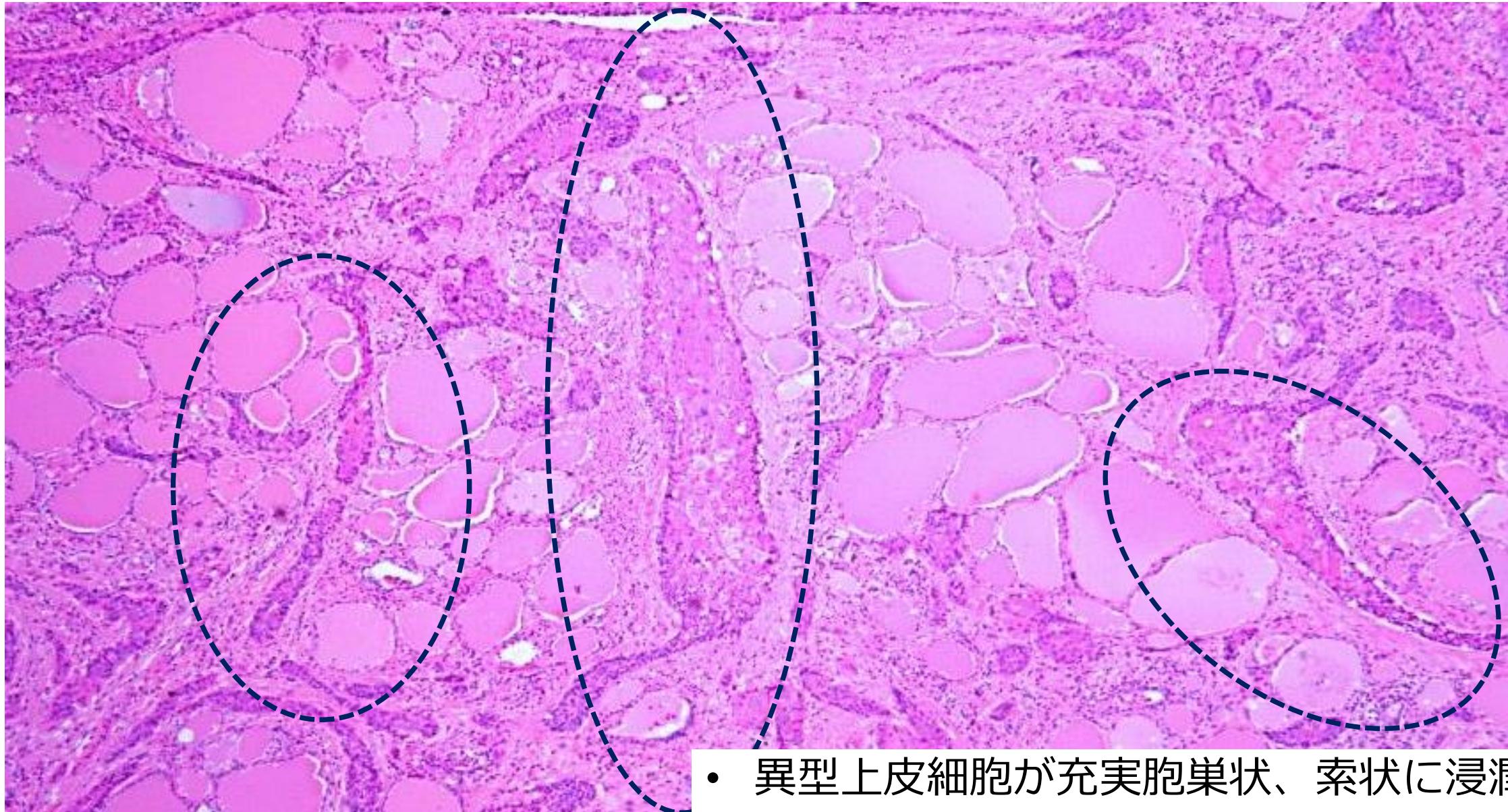
扁平上皮癌の所見

摘出材料の肉眼的所見

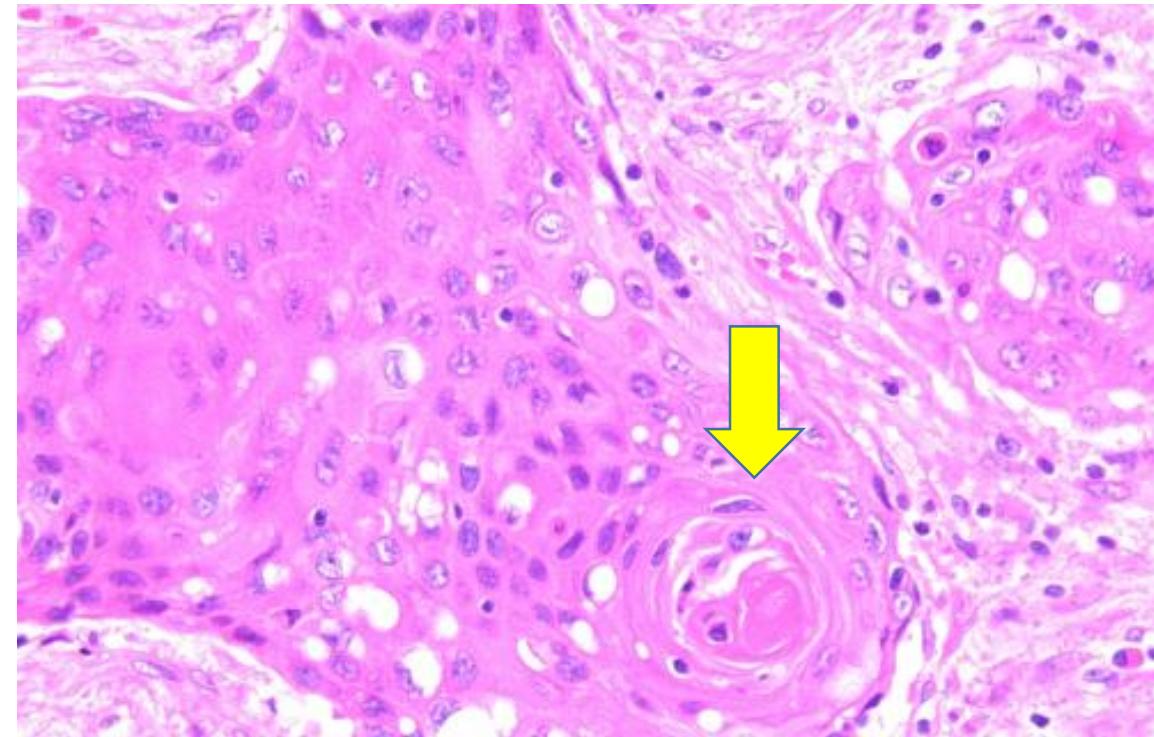
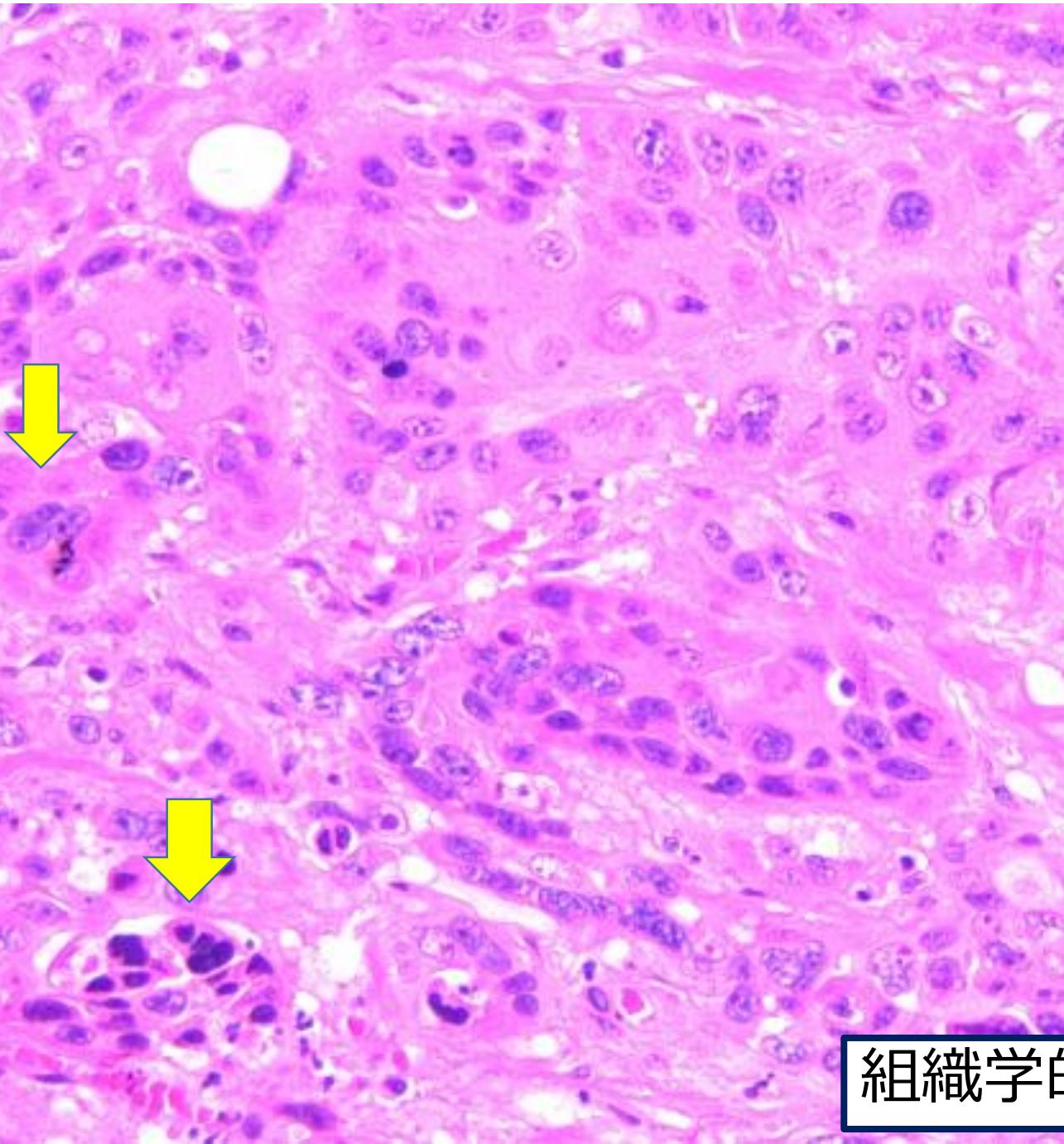


- 検体: $70 \times 42 \times 30\text{mm}$
- 甲状腺狭部を主体に、両葉に広がる $33 \times 23 \times 23\text{mm}$ の白色腫瘍
- 周囲との境界は明瞭

組織所見



- ・異型上皮細胞が充実胞巣状、索状に浸潤増殖



- 癌真珠を認める

組織学的にも扁平上皮癌の所見である

甲状腺原発の扁平上皮癌

- 形態は他臓器に発生するものと同一.
- 乳頭癌や未分化癌など他の成分を混在するものは含まない.
- 甲状腺原発はリンパ節転移が多く予後不良.
 - 他臓器（食道癌、肺癌、喉頭癌）の扁平上皮癌との鑑別が重要.
 - 既往歴や臨床情報が重要.
 - 原発の有無には免疫組織化学染色が有用.

免疫組織化学染色

未分化癌・低分化癌と転移癌との鑑別には使えない

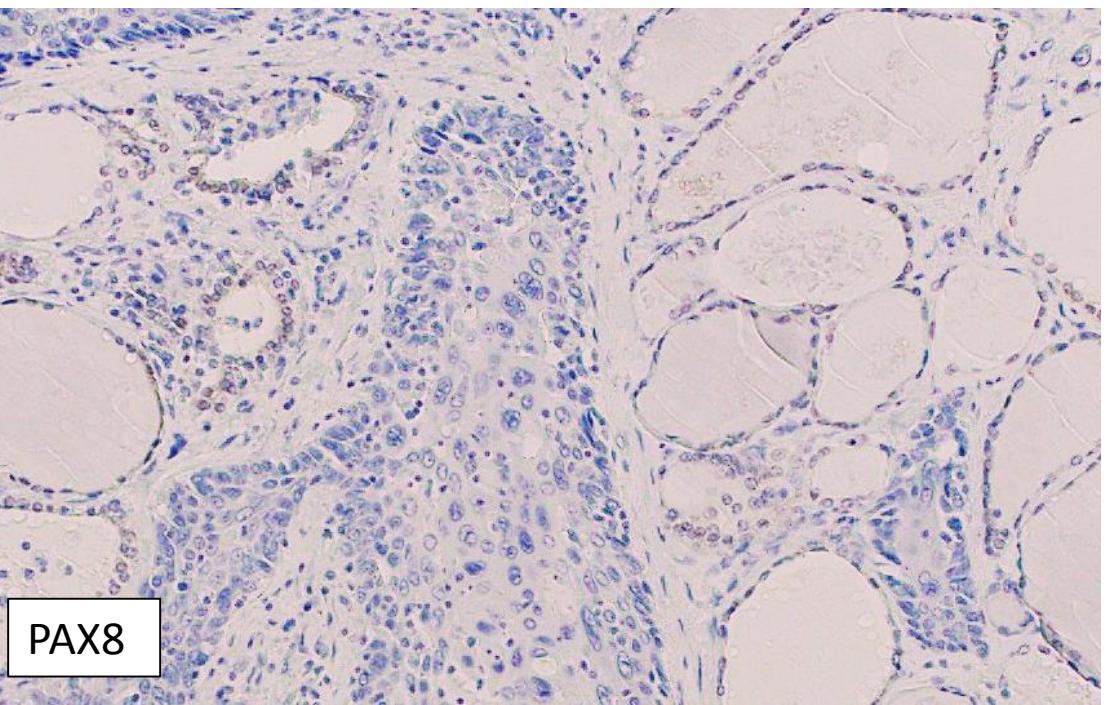
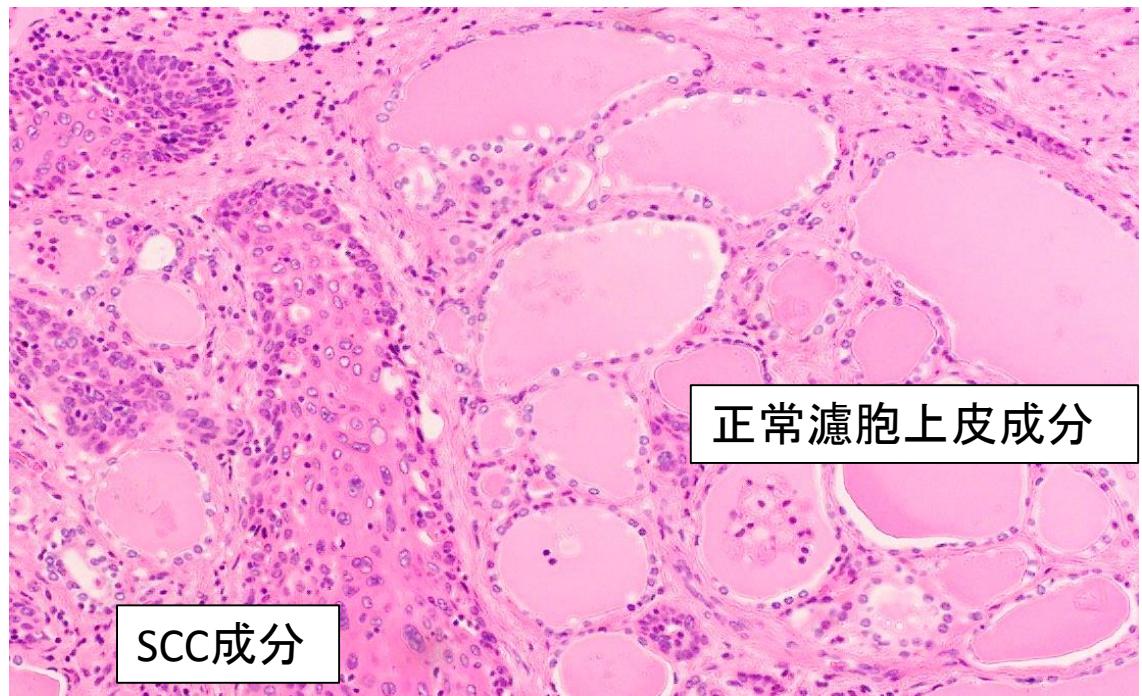
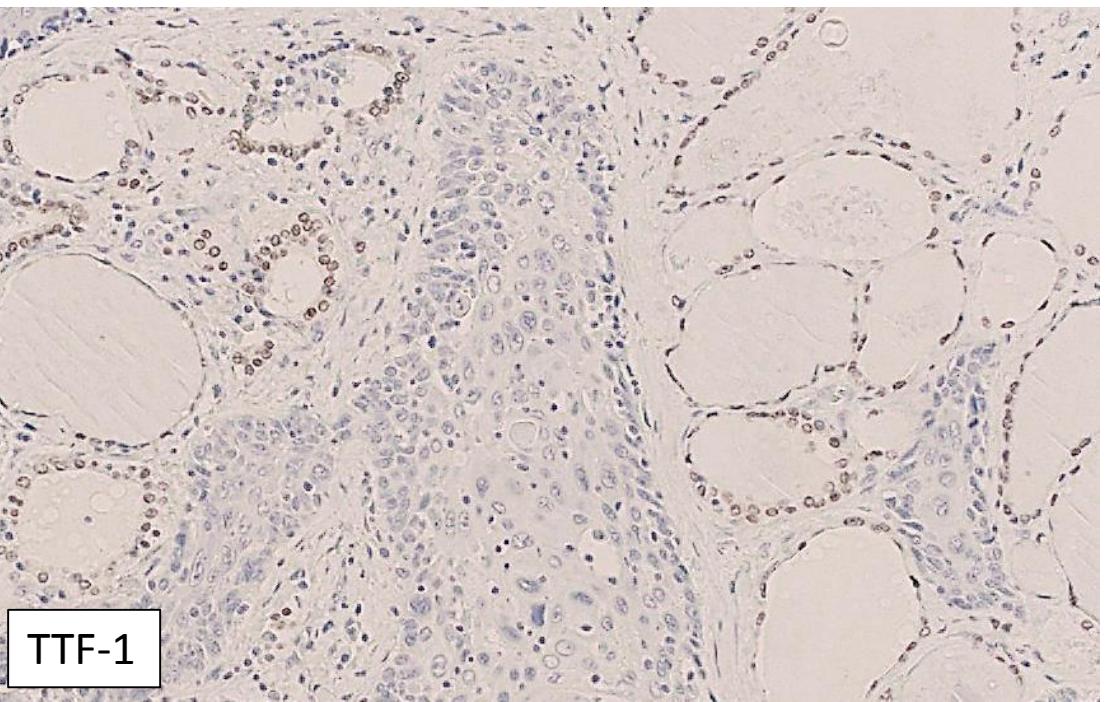
甲状腺上皮細胞マーカー主に用いられる免疫染色

	乳頭癌, 濾胞上皮性腫瘍	未分化癌, 低分化癌, 扁平上皮癌 (原発)	転移癌
TTF-1	+	-	+ (肺腺癌)
Thyroglobulin	+	-	-
PAX8	+	+	- (腎癌, 卵巣癌以外)

PAX8

- PAX(Paired Box)ファミリーに属する転写因子
- PAX8は腎細胞の分化や甲状腺の発達／発育不全に関与している
- 腎細胞癌, 卵巣癌、甲状腺癌で高発現していることが明らかになっている
- **甲状腺原発であれば扁平上皮癌でも陽性となる**

甲状腺原発の扁平上皮癌
と
転移性扁平上皮癌
との鑑別に
PAX8が有用



	正常濾胞上皮成分	癌成分
PAX8	+	-
TTF-1	+	-

免疫組織化学染色的に
転移の扁平上皮癌に矛盾しない

鑑別診断

乳頭癌

- ・乳頭状集塊, 核溝, 核内細胞質封入体を認める.

濾胞性腫瘍

- ・大小の濾胞構造やコロイドの出現率が高い.

未分化癌

- ・細胞異型の強い細胞が孤立散在性や結合性の低下した平面集塊で出現する. 細胞形態は多彩である.

甲状腺転移性腫瘍のまとめ

[臨床像]

- ・ 甲状腺における転移性腫瘍の発生頻度は低い
- ・ 肺癌、乳癌、腎癌、喉頭癌、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌など

[診断のポイント]

- ・ 癌の既往に関する臨床情報が重要
- ・ 既往がなくても転移癌はあり得る
→甲状腺原発腫瘍では通常遭遇しないような細胞像を見た場合には転移癌の可能性を考慮すべき.
- ・ 扁平上皮癌では、特に食道癌の直接浸潤が重要である.
- ・ 原発と転移の鑑別にはPAX 8 が有用（細胞診でもセルブロックを作成できれば有用である）